

自動切替機能付ホーム分電盤 HCD type

(自動電源切替開閉器 30A ~ 100A 搭載)

ご採用いただきありがとうございます。施工前にこの説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。施工後は、所定欄に施工業者名を記入の上、お客様にお渡しください。この説明書は必ず保管してください。安全にご使用いただくため、定期点検を電気工事業者へ依頼されることをお奨めします。



目次

ご使用前にご確認ください

- ・安全上のご注意 2
- ・使用上のご注意 2

施工業者様向け

施工される前にご確認ください

- ・安全上のご注意 2

施工業者様向け ホーム分電盤編

- ・施工上のご注意 3
- ・設置上のご注意 3
- ・使用上のご注意 3
- ・各部の名称 3
- ・施工方法 4

施工業者様向け 自動電源切替開閉器編

- ・施工上のご注意 5
- ・使用上のご注意 5
- ・仕様 5
- ・動作仕様 5
- ・手動操作方法 5

施工業者様向け 分岐ブレーカ編


- ・施工上のご注意 6
- ・使用上のご注意 6
- ・各部の名称 6
- ・動作 6
- ・施工方法 7
- ・分岐ブレーカ負荷側接続電線の
処理範囲 7
- ・分岐ブレーカの取付・取外方法 7
- ・電圧およびL相の切替方法
(電源側プラグイン端子) 7
- ・ハンドルロックの取り付け 7

こんなときは 8


ご使用前にご確認ください


安全上のご注意

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。
 なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

 警告	死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
---	-----------------------------

お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。


 してはいけない


 必ず守る

 警告	
	カバーは絶対に取り外さないでください。 感電するおそれがあります。
	異常(発熱、臭い、煙など)がありましたら直ちにブレーカを「切」にして、連絡先または電気工事業者へ連絡してください。 火災のおそれがあります。

■使用上のご注意

- ・ホーム分電盤の前面には、ものを置かないでください。
- ・下記のような環境では使用しないでください。
 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃など
- ・ホーム分電盤表面のよごれは、乾いた布で拭き取ってください。



 薬品や、アルカリ系・酸性系などの洗剤

 乾いた布による拭き取り
 中性洗剤の使用
 (軽く布に湿らせてご使用ください)





施工業者様向け 施工される前にご確認ください

安全上のご注意

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。
 なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

 警告	死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
 注意	軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況 および物的損害の発生するおそれがある場合を示します。

 警告	
	ホーム分電盤は相線式(1φ2W、1φ3W)・回路電圧に合わせて選んでください。 感電事故の防止ができません。
	ねじ締め付け・電線選定はこの説明書に従ってください。 火災になるおそれがあります。

 注意	
	施工・保守は活線状態で行わないでください。 感電や火災、故障の原因になります。
	搭載している機器の修理・分解・改造は行わないでください。 火災・感電・故障の原因になります。 <small>分解禁止</small>
	導電部の接続ねじは、定期的に異常(ねじの緩みや変色など)がないことをご確認ください。 火災の原因になります。 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。 火災や故障の原因になります。 単3中性線欠相保護付漏電ブレーカの過電圧検出リード線は、必ず中性バーに接続してください。 異常電圧が発生した時、異常を検出できず電気器具を損傷するおそれがあります。

施工業者様向け ホーム分電盤編

■ 施工上のご注意

- ホーム分電盤は相線式(1φ2W、1φ3W)・回路電圧に合わせて選んでください。
回路方式 ・単相2線式(1φ2W) 100V
 ・単相3線式(1φ3W) 100V/200V
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。相を間違えると異常電圧が発生します。
- 盤定格電流を超える主幹ブレーカは取り付けないでください。
- 導電部の接続ねじは、輸送中緩むおそれがあるため適正締めトルクで締め付けを行ってください。
- 電線サイズは最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。主幹ブレーカ・分岐ブレーカに接続する電線サイズは右表より選んでください。
- 分岐ブレーカには単線2本を接続しないでください。
- 圧着端子、圧着工具はJISマーク品を使用してください。電線に適合した圧着端子を使用してください。
- 導電部の接続ねじを緩めて、分岐配線は行わないでください。
- 単3中性線欠相保護付漏電ブレーカの過電圧検出リード線がある場合は、必ず中性バーに接続してください。接続しないと欠相した場合に電気器具を保護できません。
- 施工時は手袋などの保護具を付けてください。バリなどにより、けがをするおそれがあります。

導電部の接続ねじ適正締めトルク

ねじの呼び	締めトルクN・m
M4	1.2～1.6
M5※	2.0～3.0
M6	3.0～4.5
M8	5.5～7.0

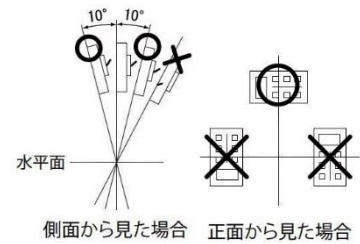
※M5 ソルダレス端子は1.6～2.0N・m

主幹ブレーカ・分岐ブレーカ適合電線サイズ

主幹・分岐ブレーカの定格電流	電線サイズ
20A	φ1.6, φ2.0
30A	φ2.6, 5.5～8.0mm ²
40A	8.0～14.0mm ²
50A・60A	14.0～22.0mm ²
75A	22.0～38.0mm ²
100A	38.0mm ²

■ 設置上のご注意

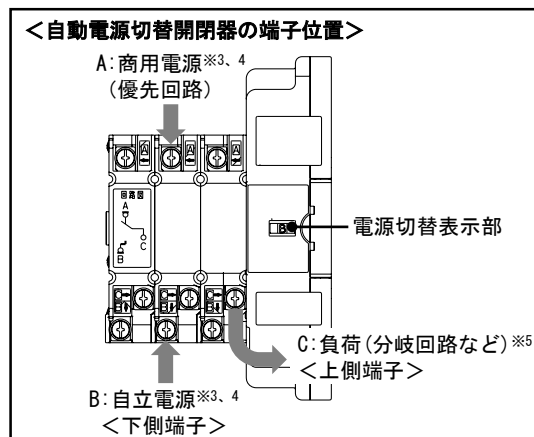
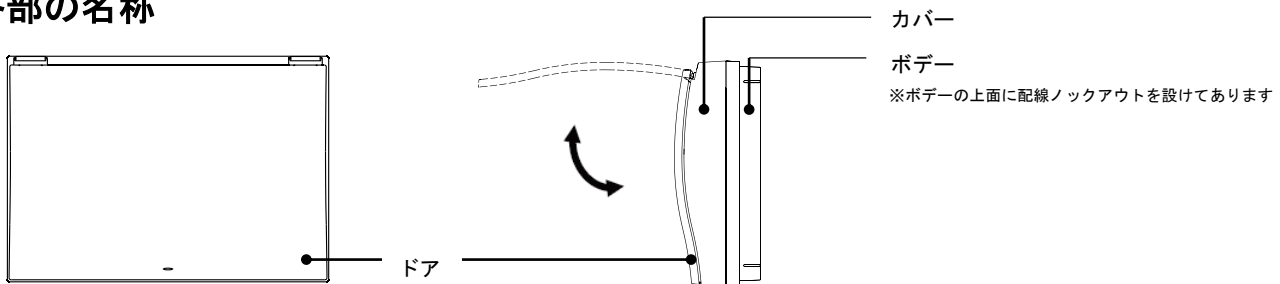
- 周囲温度は-5～+40℃、相対湿度45～85%の範囲内で、また24時間の平均温度は35℃を超えないよう、ご使用ください。
- ホーム分電盤は、容易に操作・点検のできる場所に取り付けてください。戸棚、便所、浴室などの内部には取り付けないでください。
- 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃など異常な環境での使用は避けてください。機能を損ないます。
- 屋内で使用してください。屋外や雨のかかる場所には使用できません。
- ホーム分電盤を取り付ける壁面は、平らな面を選んでください。凹凸のある場所へ無理に取り付けしないでください。
- ホーム分電盤は、右記図中に示す範囲内で使用してください。
- ホーム分電盤の前には、障害になるようなものを置かないでください。



■ 使用上のご注意

- 分岐回路を200Vで使用するときは、必ず2P2Eの分岐ブレーカを使用してください。分岐回路を200Vに切り替える場合の手順は、製品に貼り付けしている説明ラベルまたは「電圧およびL相の切替方法」(7頁)に従って行ってください。また、200Vに切り替えた場合は、必ず200Vの表示をしてください。
- 線間の絶縁抵抗測定は漏電ブレーカが故障します。
- 不要な動作を防ぐため、商品に表示してある主幹ブレーカ定格電流の80%以内でのご使用をお奨めします。
- 漏電ブレーカがある場合は、定期的にテストボタンを押して動作の確認を行ってください。「OFF」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。(漏電遮断器、単3中性線欠相保護付漏電遮断器)
- 漏電ブレーカの漏電表示ボタン(白色)が突出している場合は電気工事業者へ連絡してください。

■ 各部の名称



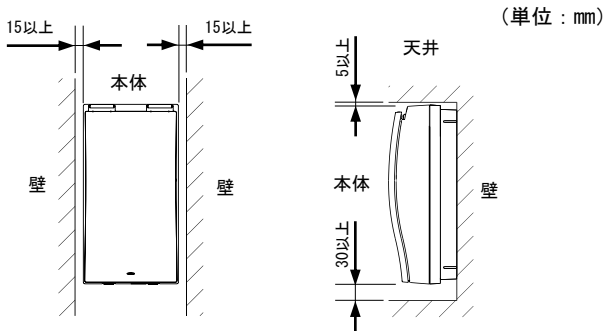
- ※1. 主幹ブレーカは仕様により、取り付けられていない場合や位置・サイズが異なる場合があります。
- ※2. 分岐ブレーカは仕様により、取り付けられていない場合があります。
- ※3. 切替開閉器への接続電源は使用用途により変更が可能です。
- ※4. A: 商用電源側端子・B: 自立電源側端子は圧着端子を表裏重ね合わせて接続できます。表裏を重ね合わせて接続する際は、表側の圧着端子のサイズを裏側の圧着端子のサイズ以下で接続してください。また、B: 自立電源側端子に圧着端子を裏向きに接続する際は、絶縁バリアなどで取り付け面との絶縁距離を確保してください。
- ※5. C: 負荷側端子は圧着端子を裏向きに接続することができません。端子部の破損や火災の原因になります。

■施工方法

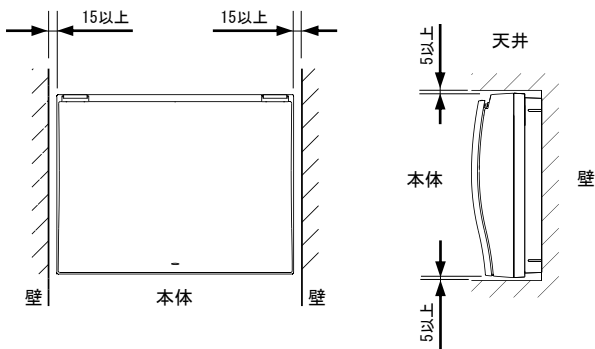
●本体の取り付けについて

- ・下図を参考に間隔をあけて取り付けてください。カバーの取り付け、取り外しが困難となります。
- ・平らな面に取り付けてください。凹凸のある場所に無理に取り付けると本体がひずみ、正常な取り付け状態・機能が維持できないことがあります。
- ・適切なねじ締付力で取り付けてください。ねじの締め付け過ぎによって本体がひずむことがあります。
- ・本体の取り付け・配線時、内部に切粉やごみが入らないように養生などの処置をしてください。切粉やごみがかかると故障の原因になります。

＜本体ヨコ寸法が280以下の場合＞



＜本体ヨコ寸法が320以上の場合＞

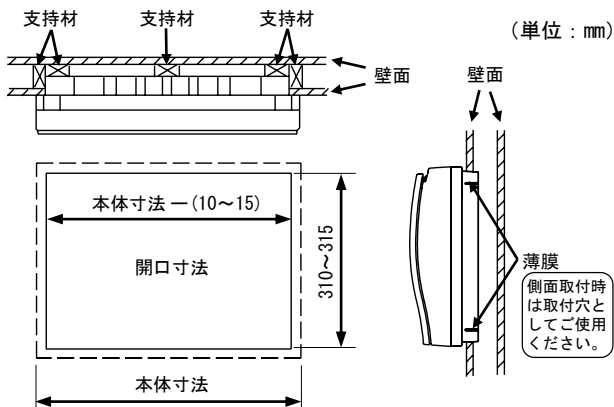


○露出取り付け

ポデー背面の配線孔に合わせて壁に必要な穴を開けてください。

○半埋込取り付け

- ・下図の開口寸法を参考に壁に半埋込用の穴を開けてください。
- ・ポデー背面の取付用穴と側面の薄膜(取付用穴)を利用して、ねじなどでポデーを固定してください。ねじ止め部には支持材などにて補強してください。(ねじ止め部は支持材との隙間がないように調整してください。開口寸法が小さい場合や大きすぎる場合に無理に取り付けるとポデーが変形するおそれがあります。)

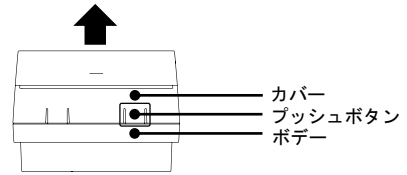


●カバーの取外・取付方法

＜本体ヨコ寸法が280以下の場合＞

○取外方法

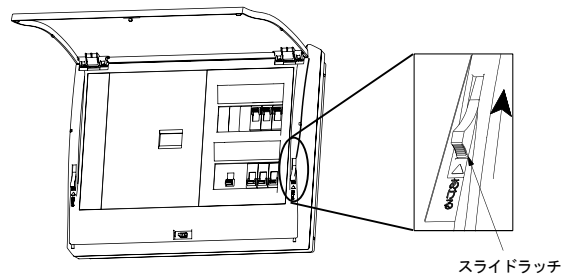
カバー下部のプッシュボタンを左右同時に押しながら、カバーを手前に引いて外します。



＜本体ヨコ寸法が320以上の場合＞

○取外方法

左右のスライドラッチを同時に上にスライドさせ、カバーを手前に引いて外します。(下図参照)

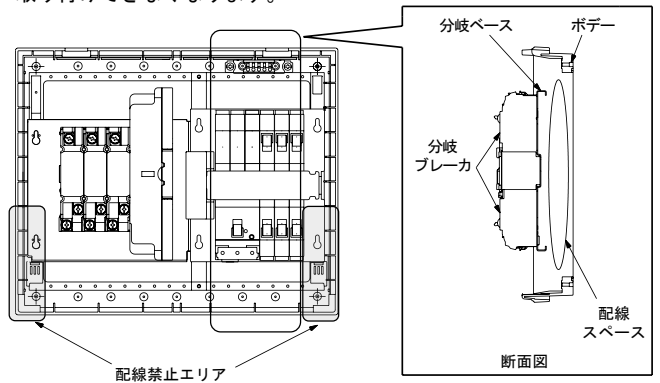


○取付方法

位置を合わせ、ポデーへ押し込んでください。(左右のスライドラッチ部でカチッと音がすれば取り付け完了です。)

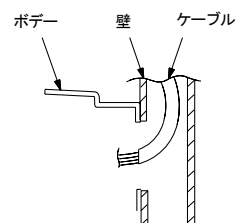
●配線禁止エリアについて(本体ヨコ寸法320以上)

配線が上下にわたる場合は分岐ブレーカ部背面の配線スペースで行ってください。本体両側面の配線禁止エリアに配線するとカバーが正しく取り付けできなくなります。



●ケーブルの引き込みについて

分電盤への引き込み主幹ケーブルが太い場合、本体・内部機器に干渉して本体が変形するおそれがあります。右図のように分電盤の間近でケーブル被覆をむいて入線するなどして、分電盤内の機器への影響を少なくしてください。

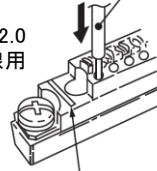


●アース端子への電線接続方法

・接続

奥まで差し込む

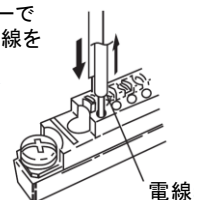
電線
φ1.6・φ2.0
単線用



ストリップゲージ15mm

・取り外し

ドライバーで
押し電線を
引き抜く



■施工上のご注意

- ・設置および配線は活線状態で行わないでください。感電のおそれがあります。
- ・電線接続の際、端子ねじを適正締付トルクで締め付けてください。火災の原因になります。
- ・自動電源切替開閉器は、ブレーカではありません。従って過電流での自動引き外しは行いません。
- ・高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃などの異常環境に設置しないでください。感電・火災のおそれがあります。
- ・C: 負荷側端子の圧着端子接続の際、圧着端子を裏向きに締め付けてきません。端子部の破損や火災の原因になります。
- ・異極間の耐圧試験、絶縁抵抗測定は行わないでください。故障の原因になります。

- ・電気工事は、有資格者（電気工事事）が行ってください。
- ・配線作業は、回路を無電圧状態（断路）にし、電気がきていないことを確認して行ってください。感電、短絡のおそれがあります。
- ・ごみ、コンクリート粉、鉄粉、虫などの異物および雨水などが製品内部に入らないように施工してください。火災や動作しないおそれがあります。
- ・手動ハンドルは非常時での切替で使用し、それ以外の電力切替では使用しないでください。感電・火災・破損のおそれがあります。
- ・電線はA: 商用電源側端子・B: 自立電源側端子・C: 負荷側端子の指示通りに接続してください。事故の原因になります。

■使用上のご注意

- ・通電中は端子部に触れないでください。感電のおそれがあります。
- ・保守、点検は、専門知識を有する人が回路を無電圧状態（断路）にし、電気がきていないことを確認して行ってください。感電のおそれがあります。
- ・修理、分解、改造は行わないでください。火災・感電・故障の原因になります。

- ・手動ハンドルは回路を無電圧状態（断路）にしてから操作してください。感電・火災・破損のおそれがあります。
- ・定格電圧、定格電流を超えて使用しないでください。事故・火災・故障または短絡のおそれがあります。
- ・手動ハンドルは、シャフトの根本まで入れて操作してください。外れて怪我をするおそれがあります。

■仕様

機種		DS32MC	DS62MC	DS33MC	DS63MC	DS73MC	DS103MC
項目	定格電流(A)	30	60	30	60	75	A-C間:100A B-C間:75A
	極数	2P			3P		
	定格使用電圧 AC(V)	100			200		
	定格使用電圧変動許容範囲	85~110% (※1)					
端子サイズ		M6			A側:M8 B側:M6 C側:M8		
最大接続可能電線(mm ²)		22			A側:38 B側:22 C側:22		
適合圧着端子		R2-6 ~ CB22-6S			A側:R5.5-8 ~ 38-S8 B側:R2-6 ~ CB22-6S C側:R5.5-8 ~ CB22-8S		

※1 定格使用電圧変動許容範囲外でも電源切替動作する場合があります。

■動作仕様

優先回路	A:商用電源側優先 ^{※2}
切替時間	即時(10~200ms) ^{※3,4}

※2 A:商用、B:自立電源側端子にそれぞれ電力が供給されている場合は、A:商用電源側端子の電源が優先して接続されます。

※3 電源の切替え時にドアを閉じた状態で「ガチャン」という動作音(約80dB)が発生します。

※4 標準仕様の場合となります。

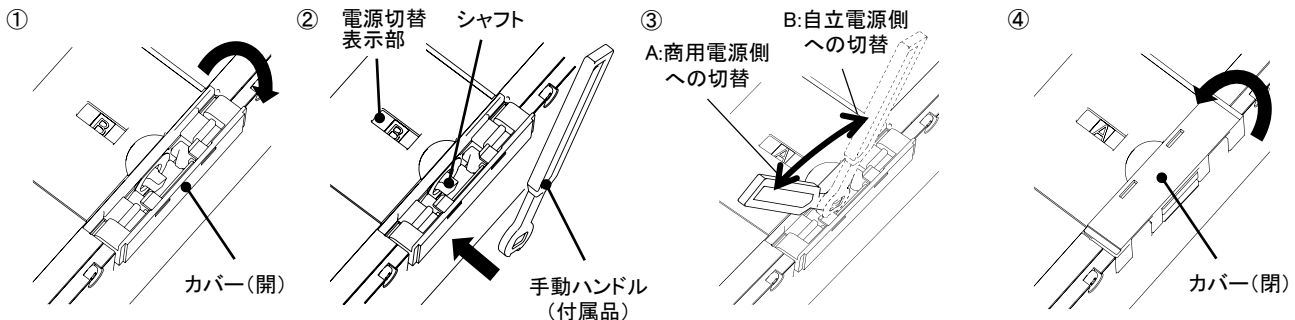
■手動操作方法

- ①カバーを開けてください。
- ②シャフトに手動ハンドルを取り付けてください。電源切替表示部がBの時は、手動ハンドルを上へ傾けた位置で取り付けができます。電源切替表示部がAの時は、手動ハンドルを下へ傾けた位置で取り付けができます。
- ③手動ハンドルを少し内側に力を加えて、A:商用電源側もしくはB:自立電源側に手動ハンドルを傾けてください。手動ハンドルの操作に合わせて回路と電源切替表示部の表示が切り替わります。
- ④手動ハンドルを取り外し、カバーを閉めてください。

⚠ 注意

手動ハンドルは回路を無電圧状態(断路)にしてから操作してください。感電・火災・破損のおそれがあります。

手動ハンドルは、シャフトの根本まで入れて操作してください。外れて怪我をするおそれがあります。



ご注意

- ・施工後は、手動操作方法を十分に理解してからご使用ください。また、取扱説明書を製品近くに保管し、非常時に操作方法がわかるようにしてください。
- ・カバー開放時は制御機構が停止するため、手動操作後は必ずカバーを閉めてください。

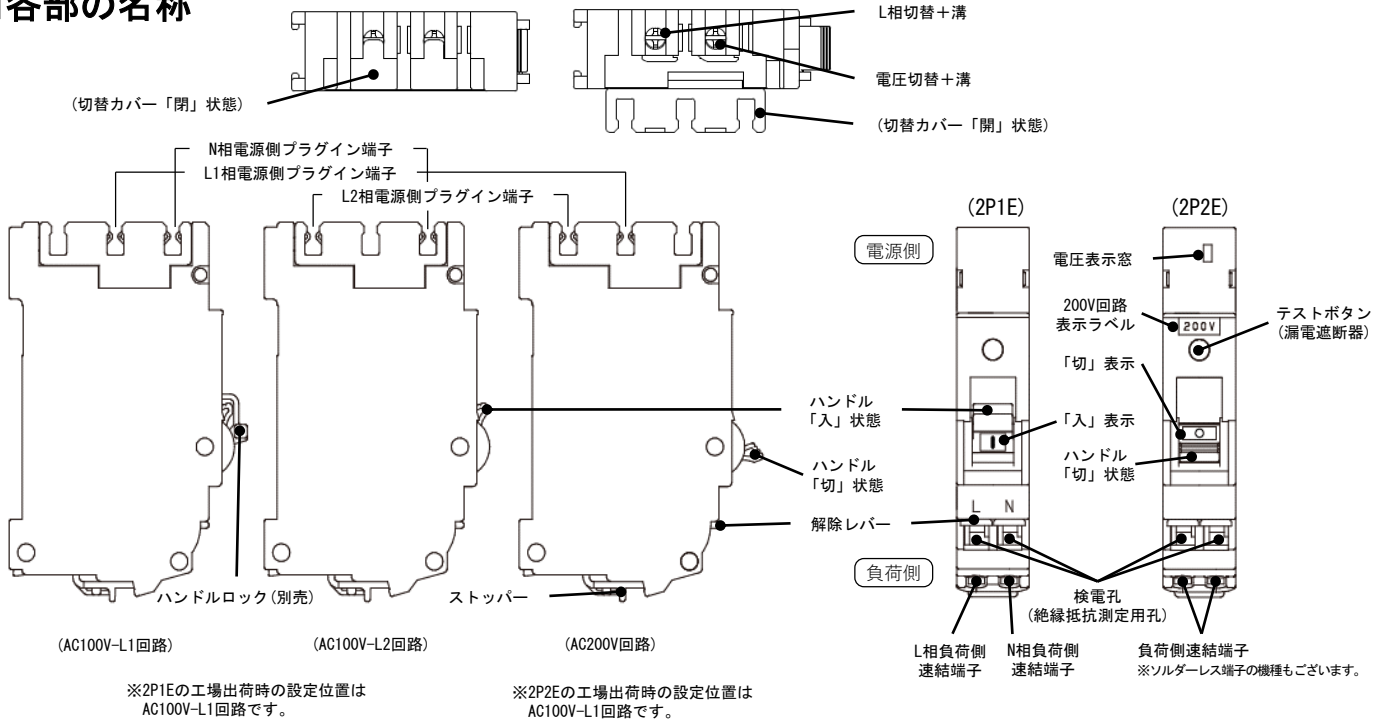
■施工上のご注意

- ・高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃などの異常環境に設置しないでください。感電・火災・不動作のおそれがあります。
- ・1つの速結端子に2本以上の電線を差し込まないでください。火災・不動作のおそれがあります。
- ・絶縁抵抗において充電部と大地間の測定はできますが、異極間の測定はできません。測定した場合、故障の原因になります。(漏電遮断器)
- ・この説明書の「分岐ブレーカ編」に記載してある使い方と異なった取り扱いをしないでください。機器の故障やけがをされるおそれがあります。
- ・電線の押し込み荷重が高すぎる(100N以上)と破損し、火災・不動作のおそれがあります。
- ・電気工事は、有資格者(電気工事士)が行ってください。
- ・配線作業は、上位遮断器をOFFにし、電気がきていないことを確認して行ってください。感電のおそれがあります。
- ・本体の定格にあった電源に接続してください。不動作・故障の原因になります。
- ・接続は電源側および負荷側の指示のとおりに行ってください。
- ・ごみ、コンクリート粉、鉄粉、虫などの異物および雨水などが遮断器内部に入らないように施工してください。火災・不動作のおそれがあります。
- ・電線が変形・腐食している場合は、電線をむき直してから接続してください。火災の原因になります。
- ・電線接続の際、端子ねじを確実に締め付けてください。火災の原因になります。
(ソルダーレス端子のみ)適正締めトルク1.5 ~ 2.5N・m
接続可能電線max. 8mm²
- ・この遮断器は、弊社ブチパネルおよびブチセーパへの取り付け専用です。他社銅バーへ取り付けられた場合、火災の原因になります。
- ・電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災の原因になります。
- ・電線を負荷側速結端子に接続する場合、橙色の接続完了表示が出るまで、電線を奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災の原因になります。
- ・接続電線は電線処理範囲内で配線してください。範囲外に出ると電線被覆を傷つけ、感電・短絡のおそれがあります。
- ・取付工事終了後、電源側および負荷側端子間の電圧確認とテストボタンによる動作の確認をしてください。(漏電遮断器)
- ・AC100V回路専用の機種は、電線接続時にはL相とN相を正しく接続してください。火災の原因になります。
- ・AC200Vで使用する場合は、電圧表示が赤色であることを確認してください。火災・不動作の原因になります。
- ・連続負荷を有する分岐回路の負荷容量は、その分岐回路を保護する過電流遮断器の定格電流の80%を超えないようにしてください。(内線規程)
- ・周囲温度は-5 ~ +40℃、相対湿度45 ~ 85%範囲内、また24時間の平均温度は35℃を超えないよう、ご使用ください。

■使用上のご注意

- ・端子部に触れないでください。感電のおそれがあります。
- ・2か所の裸充電部に絶対に触らないでください。行きの電流と帰りの電流との差が規定以上になった時に動作する仕組みとなっており、感電時に動作しません。(漏電遮断器)
- ・8.5倍を超える瞬時電流がある負荷には使用できません。(Hタイプを除く)
- ・電気機器のアース端子を必ず接地してください。(漏電遮断器)
- ・自動的に遮断した場合は、原因を取り除いてからハンドルを「I」にしてください。感電・火災のおそれがあります。
- ・月に1回程度テストボタンを押して動作の確認を行ってください。「O」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。(漏電遮断器)
- ・保守、点検は、専門知識を有する人が上位遮断器をOFFにし、電気がきていないことを確認して行ってください。感電のおそれがあります。

■各部の名称



■動作

- ・過電流や短絡事故が発生した場合、自動的にトリップし電路を遮断します。
- ・漏電または地絡事故が発生した場合、自動的にトリップし電路を遮断します。(漏電遮断器)
- ・トリップした場合の動作表示
ハンドルがOFFの位置(ハンドル表示はO)に止まります。

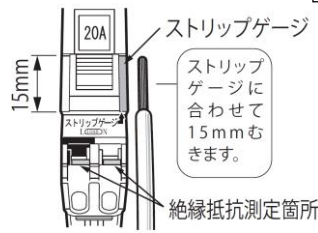
ご注意

ハンドルの再投入<ON(ハンドル表示は位置I)>後、即動作するときは負荷回路が短絡状態か、遮断器が異常です。このような異常が生じた場合は電気工事店へ点検を依頼し、原因を取り除いた後ハンドルをONにしてください。

■施工方法

●電線の接続

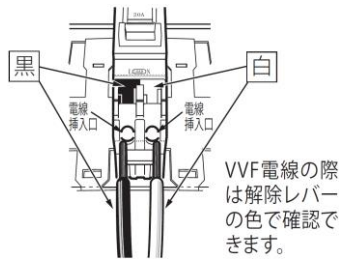
①電線の被覆をむく



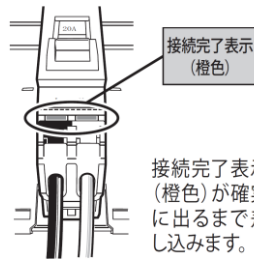
【ご注意】

電線が変形・腐食している場合は、電線をむき直してから接続してください。電線を差し込んでも橙色の接続完了表示が出ない場合は接続が不十分です。電線のむき長さ・変形を確認の上、接続し直してください。

②電線を差し込む

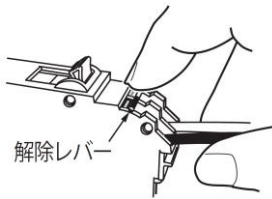


③接続完了表示を確認する

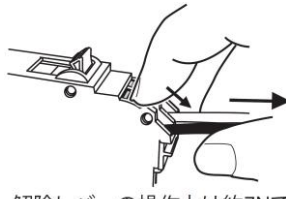


●電線の引外し

①ハンドルをOFFにし解除レバーに指をかける



②解除レバーを下に押し下げながら電線を後方に引き抜く



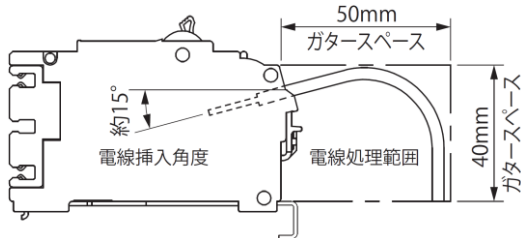
解除レバーの操作力は約7Nです。

接続可能電線		適合圧着端子	PN31TA・32TA PG31TA・32TA	PN32TA PG32TA	PG32TA -EV
Cu(銅) 単線	φ1.6	TC2-20(棒圧着端子) VC2(絶縁キャップ)	15・20A	30A	20A
	φ2.0		○	×	○
	φ2.6		○※	○	○
Cu(銅) より線	1.25mm	<ニチフ製>	○	×	×
	2.0mm	TC2-20(棒圧着端子)	○	×	×
	3.5mm	<弊社製>	○	×	○
	5.5mm	シールドキャップ入り 棒圧着端子NA803OR, S, T	○	○	○

※NA803OR, S, T棒圧着端子時に使用可能

■分岐ブレーカ負荷側接続電線の処理範囲

接続電線は電線処理範囲内で配線してください。



【ご注意】

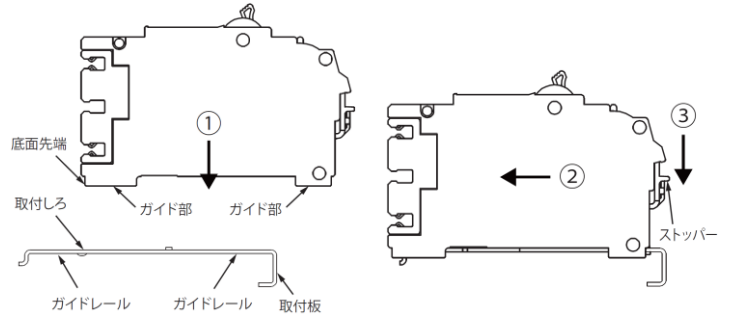
接続電線は電線処理範囲内で配線してください。範囲外に出ると電線被覆を傷つけ、感電・短絡のおそれがあります。

■分岐ブレーカの取付・取外方法

プラグイン端子の位置を確認してください。
100V回路で使用する場合は相のバランスを考慮してL相を切り替えてください。
200V回路で使用する場合は「各部の名称」に示す図を参考に「200V回路表示ラベル」を貼ってください。
※分電盤に取り付けたままでの切り替えはできません。

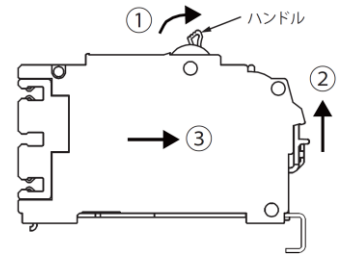
●取り付け

- ①遮断器の底面先端を取付板の取付しろに合わせて置く
- ②ガイドレールに沿って奥まで差し込む
- ③ストッパーを下側(保持位置)に降ろす



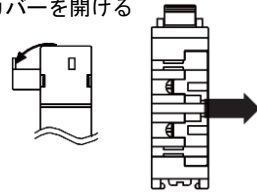
●取り外し

- ①ハンドルをOFFにする
- ②ストッパーを上側(取外位置)に上げる
- ③ハンドルに指を掛けて負荷側に水平に引く



■電圧およびL相の切替方法(電源側プラグイン端子)

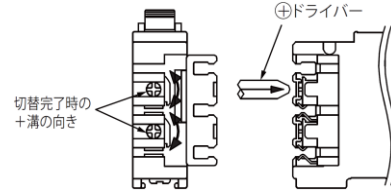
①切替カバーを開ける



【ご注意】

切替カバーの中央にあるへこみを利用して開けてください。別の部位から開けると指の損傷、切替カバーが外れるおそれがあります。

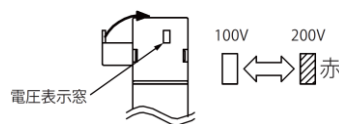
- ②電圧を切り替える場合は電圧切替+溝に、L相を切り替える場合はL相切替+溝に
⊕ドライバー(中)を差し込み、プラグイン端子を回転させる



【ご注意】

回転させる位置にもう一方のプラグイン端子がないことを確認してください。無理に回転させた場合、破損するおそれがあります。

③切替完了後、切替カバーを閉める



【ご注意】

プラグイン端子が完了位置にない状態で切替カバーを閉めると破損するおそれがあります。

■ハンドルロックの取り付け

- ①ハンドルロックを定格電流表示
- ②ハンドル側へ押し込み固定するの前方にある隙間へ挿入する



こんなときは

現象	確認項目	処置方法
電気がつかない	ブレーカが「ON」になっていますか。	「OFF」になっているブレーカを「ON」にしてください。 再び「OFF」になる場合はハウスメーカーまたは電気工事業者へご連絡ください。
	自動電源切替開閉器の電源切替表示部は「A」、「B」のどちらになっていますか。	「A」の場合 停電かつ蓄電システムが自立運転に切替っていない可能性があります。 蓄電システムの取扱説明書を確認し、解決しない場合はハウスメーカーまたは電気工事業者へご連絡ください。
		「B」の場合 蓄電池が充電切れもしくは蓄電システムが停止している可能性があります。蓄電システムの取扱説明書を確認し、解決しない場合はハウスメーカーまたは電気工事業者へご連絡ください。

付属品

下記は基本の付属品です。製品仕様により内容が異なる場合があります。

- ・ 施工説明書/取扱説明書（本書）
- ・ 手動ハンドル
- ・ 分岐回路用シール
- ・ 切替表示シール
- ・ 取付ねじ

製品仕様によっては本書以外に各種機器の取扱説明書を付属する場合がありますが、これらの取扱説明書には組込前の内容について記載しているため付属品が一致しない場合があります。

施工業者名

TEL

施工年月日

年 月 日

お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら弊社お客様相談センターにお問合わせください。

TEL (0561) 64-0152

〈受付時間〉 9:00~12:00、13:00~17:00（土・日・祝日は休み）

・ お客様からご提供いただいた個人情報、商品の修理やご相談への対応、および情報の提供に利用いたします。

・ 利用目的の範囲内で、グループ各社と共同で利用させていただく場合があります。

・ 個人情報はあらかじめ本人の同意を得ないで、第三者に提供することはいたしません。

警告表示がずれたり、破損した場合は、新しい警告ラベルをお買い求めください。

本製品の故障や瑕疵により、当社の予見の有無を問わず生じた二次損害について、当社は一切の責任を負いかねます。

仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

2025年8月

C903851901

NITTO KOGYO

©NITTO KOGYO CORPORATION

日東工業株式会社

〒480-1189 愛知県長久手市蟹原2201番地